

### SDGs 達成に向けた宣言書

宣言者 所在地 秋田市下新城野字街道端西  
241-438  
名称 公立大学法人秋田県立大学  
代表者 理事長 小林 淳一

公立大学法人秋田県立大学は、SDGs の内容を理解し、SDGs 達成に向けた方針及び取組を次のとおり宣言します。

#### SDGs 達成に向けた取組方針等と目指す姿

本学は、「次代を担う有為な人材の育成と、開かれた大学として地域の持続的発展に貢献する」ことを理念としており、機械・電気・電子・情報・建築・経営工学の幅広い産業分野におけるグリーンイノベーションを志向した先端的科学技術の教育研究と、食・農・林、さらにはそれらを取り巻く環境の持続可能性の構築及び、人・地域の持続的発展を目指して地域の多様で豊かな生物資源に関する教育研究を深化させます。これらの教育研究の成果を結集した秋田版スマート農業では、農業改革をはじめ関連する製造、情報通信業等の産業振興へ波及する取組を行い、人口減少・少子高齢化が進む秋田県において、持続可能で環境改善も進む Society5.0 の実現に貢献していきます。SDGs は、その実現に秋田県立大学が必要とされており、秋田県立大学にとっても必要な目標です。引き続き地域の皆様と共に目標達成を目指します。

3 側面 (主な分野に☑)	SDGs 達成に向けた 重点的な取組	2030 年に向けた 指標	重点的な取組及び 指標の進捗状況 <small>(※初回記入不要。1年ごとに要報告) 初回登録年月日：R4年3月18日</small>	関連する主な SDGs ゴール (最大3つ)
☑経済 ☑社会 ☑環境	教育においては、SDGs を 21 世紀型教養の一つと位置づけ、教育課程全体を通底する理念として SDGs 推進の視点を取り入れるとともに、各専門分野においても、スマート農業、DX など、先端的な SDGs 推進の技術や知見を教授し、SDGs 実現に貢献する人材を養成する。	SDGs 及びデータサイエンスに関する素養と、先端的科学技術や生物資源に関する専門の知識・技能を身につけ、持続的な社会の発展に貢献できる人材を輩出する。	社会の持続的な発展に貢献できる人材を養成するため、SDGs に関する授業（13 科目程度）、データサイエンスに関する授業（16 科目程度）のほか、再生可能エネルギー、DX、AI、スマート農業、木材資源利用等に関する先端的科学技術や生物資源に関する授業を開講している。また、SDGs を現代的な教養と位置づけ、環境に関連した多様な社会課題や SDGs について全学的に関心を高められるよう授業科目「総合科目 A 人間と環境」の内容を更新し次年度から実施する。	1 4 10

<p>☑経済 ☑社会 ☑環境</p>	<p>研究においては、クリーンエネルギーを用いて動く高性能モーター、秋田版スマート農業、DXなど、多様な専門分野でグリーンイノベーションを志向した研究開発を遂行する。また、食・農・林とそれらを取り巻く環境の持続可能性の構築と、人・地域の持続的発展を目指して地域の多様で豊かな生物資源に関する研究を深化させる。</p>	<p>秋田版スマート農業、航空機用高性能モーターなど、Society5.0の実現に貢献する研究開発を行い、社会実装に繋げる。さらに、物質環境の適正化や生態系機能評価、最新技術を駆使した環境保全型農業の推進による水質改善や化石資源から循環型バイオマス資源への転換等を通じた気候変動対策、さらには機能性食品開発等による健康寿命の増進など、人や地域の持続可能な発展をめざす。</p>	<p>航空機電動化に向け大出力モーターの開発を進め、秋田県内企業と協力して主要部品の試作に挑戦したほか、DXに関連する研究として、由利本荘市の過疎地域を対象とした「乗り逢い交通」事業に参画し、タブレットを利用した予約・相乗りシステムを提供している。秋田版スマート農業モデル創出事業では、現実環境を仮想空間に再現した「アグリデジタルツイン」利用の研究成果について国際学会で発表した。また、気候変動対策に資する取組としては、小安峡温泉の熱エネルギーからの発電・応用を行うゆざわ熱電プロジェクトを産学官で推進したこと、木質資源活用推進のため耐火試験炉を活用した木質部材や機能性木質材料の新規開発、土木分野等への直交集成材 CLT の活用を推進したことがあげられる。</p> <p>健康寿命増進に関する食品開発研究としては、旨味成分や香気成分の中で、減塩しても味を強く感じさせることに有効な成分の探索を行っている。</p>	<p>7 9 15</p>
<p>☑経済 ☑社会 ☑環境</p>	<p>社会貢献については、各専門分野のSDGsに関連する教育研究の成果により、グリーンな地域作りや産業振興に協力していく。また、SDGsの実践を可視化し、公開講座等を通じて県民への啓発に努める。</p>	<p>SDGsに関連する大学の知見に基づいて、地域のまちづくり、企業の技術開発等への支援、スマート農業指導士等の人材養成、小中学生向け学習ゲームの考案など、多様なニーズに応えていく。</p>	<p>地域のまちづくり関連では、建築の木質化に向けた構造部材の開発 や秋田での 2050 年カーボンニュートラル実現のための住宅政策シナリオを提示した。また、TDK 一番堰まちづくり事業に参画し屋外空間をデザインした。三種町では、学生による地域住民への聞き込み調査をもとに持続可能な地域づくりをめざした提案を行った。</p> <p>企業の技術開発支援では、光学機器生産プロセス管理システム試作、電動除雪機の開発、無人店舗実証実験を企業と共同で行った。今年度から開始したスマート農業指導士育成プログラムでは、22名（予定）の受講生にスマート農業指導士の資格を授与し、技術の普及を図ることとしている。</p> <p>そのほか、「さきがけ夏休み子供記者体験教室」に協力し、小学生を対象に樹木と木材に関する理解を深める講義、木を曲げる体験、レーザー加工によるグッズの製作体験を行った。また、SDGsの学習ツールとして考案した「SDGsゲーム」を学内研修や学外でのゲームイベントで活用した。</p>	<p>4 9 11</p>

ゴール 番号	内容	アイコン
1	貧困をなくそう	
2	飢餓をゼロに	
3	すべての人に健康と福祉を	
4	質の高い教育をみんなに	
5	ジェンダー平等を実現しよう	
6	安全な水とトイレを世界中に	
7	エネルギーをみんなに、そしてクリーンに	
8	働きがいも経済成長も	

ゴール 番号	内容	アイコン
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	
10	人や国の不平等をなくそう	
11	住み続けられるまちづくりを	
12	つくる責任、つかう責任	
13	気候変動に具体的な対策を	
14	海の豊かさを守ろう	
15	陸の豊かさも守ろう	
16	平和と公正をすべての人に	
17	パートナーシップで目標を達成しよう	